

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	ブランド推進・6次産業化事業			事業コード	1725
所属コード	141000	課等名	農政課	係名	農村振興係
課長名	佐々木和則	担当者名	熊林千司	内線番号	6045
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	活力ある農林業の振興	コード	1
	基本事業	生産意欲と技術の向上	コード	1
予算費目名				
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	17 年度	
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

平成 18 年 1 月 27 日の盛岡ブランド宣言を受け、盛岡市内で生産される農畜産物のブランド化を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 18 年 1 月に策定した盛岡ブランド推進計画の中で、主要 4 プロジェクトの 1 つに「盛岡特産品ブランド認証」を位置づけ認証制度を導入するとともに、伝統と暮らしに根ざした数多くの工芸品や農産物、名物料理の一層のブランド化を進めることとした。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

ブランド化による有利販売を図るためりんご生産者による「盛岡りんご推進協議会」が組織され、盛岡りんごフェアなどのイベント参加を実施している。

しかし、ブランド化すべき対象が個人的に参加している者のだけとなっているため、盛岡地域全体への貢献度はきわめて低い。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

盛岡ブランド認証を受けた農産物, 加工品

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 見込み
A 盛岡特産品ブランド認証事業者数 (農産物等)	件	22	22	22	22	
B 盛岡特産品ブランド認証件数 (農産物等)	件	25	25	25	25	
C						

(3) 24年度に実施した主な活動・手順

盛岡デー, 特産品ブランドフェア, 盛岡りんごフェアや農業まつり等の催事に参加するとともに, 「津志田芋の子給食の日」に合わせた食材提供を行った。

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 目標値
A 販促催事開催数	回	4	4	7	7	
B						
C						

農業まつり, 盛岡デー, 給食の日, 民間催事→りんごフェア 3回を追加

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

盛岡のブランドイメージ向上を図り, かつ農産物等の売上向上につなげる。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	24年度実績	26年度目標値
A 盛岡りんごフェアの売上	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	千円	483	766	700	833	
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	24年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	0	0	0
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	0	0	0	0
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	10	10	10	30
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	40	40	40	120
計	トータルコスト A+B	千円	40	40	40	120
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

盛岡ブランドを推進することにより、盛岡で生産される農畜産物のイメージアップとなり農業者の生産意欲の向上につながることから施策体系に結びついている。

② 市の関与の妥当性

市として取り組むことにより、農林業だけでなく商業、工業などの他産業や市全体への波及効果が見込まれる。

③ 対象の妥当性

盛岡ならではの商品として認証を受けた農産物、加工品等を優先的にPRすることで、特産品振興につなげることから妥当である。

④ 廃止・休止の影響

宣伝・販売・販路拡大に効果をあげており事業の廃止・休止は施策の成果に悪影響である。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

商品の宣伝・販売についてさらに効果的な手法を検討する必要がある。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

盛岡ブランド認証制度によるものであり公平・公正である。

(4) 効率性評価

特産品の更なる販路拡大を検討している中、事業費、人件費とも節減する余地はない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

認証商品のPRと、より効果的な宣伝・販売に努める。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

認証制度のメリットを明確にすることが必要であり、主管する部局での全庁的コントロールと方向性の明示が必要である。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

生産基盤の整備のほかに、流通を含めた出口対策が必要である。また、6次産業化をはじめとしたブランド化による農林業の振興は、農家所得に繋がるため、引続き事業を継続する。